

令和6年度小平市立上宿小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

「書くこと」の領域において正答率が全国平均より3.6ポイント高く、「読むこと」の領域においては8ポイント低かった。言語については、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことが、全国平均より18.4ポイント低く、文中の主述の関係性を正しく把握することが全国平均より7.8ポイント低かった。

課題

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること、登場人物の相互関係やそれぞれの心情などについて、描写を基に捉える力を定着させる必要がある。

言語においては、学年別漢字配当表に示される漢字の定着と文章を理解すると共に主述関係を正しく理解し、文章を構成する力を高める必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

文章を読んで内容を要約したり、話を聞いて内容を簡潔にまとめたりすることにより、後で自分なりに文章や話の内容をまとめる機会を多く設けることで、内容理解の力を育てていく。また、主述関係を明確にした文章を意図的に書かせることを通し、相手に分かりやすく伝える力の向上を図る。漢字の確かな定着のために、家庭学習とも連携した取組を充実させ、新出漢字や既習漢字の定着を図る。

【算数】

状況の分析

「数と計算」の領域において、正答率が全国平均より1.6ポイント、「変化と関係」領域においては3.1ポイント、「データの活用」領域においては、2.1ポイント低かった。

また、問題の形式については、記述式の形式において全国平均を4ポイント下回る結果となった。

課題

除数が小数の除法において、正しく計算したり除数と商の大きさの関係性を的確に捉える力の育成が必要である。また、速さの問題では、何を基にして考えるのか言葉や数を用いて説明する力を高める必要がある。さらに、表やグラフを正確に読み取り、必要なデータを取り出して分類整理し、条件に当てはまる内容を言葉と数を用いて記述する力を高める必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

算数科の授業改善にあたっては、習熟の時間を確保して学習内容の定着を図ることに重点的に取り組む。また、単に問題を解くだけでなく、問題場面で何を問われているのかを考えられるようにするために、それぞれの考えを伝え合うことを通して、主体的・対話的に検討し合う時間を確保する。また、学習者用端末を活用し、デジタルドリルに家庭学習でもより一層取り組ませ、既習事項の確実な定着を図るとともに学習の理解度に応じた学習により、個別最適な学びの実現を図っていく。

肯定的回答が、全国平均より10ポイント以上低かった項目が63項目中21項目あった。

全体に関わる項目においては、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で14.9ポイント、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」で17.4ポイント、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」で20.2ポイント、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」で15.2ポイント、「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」で19.6ポイント、「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」で19.3ポイント、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」で14.1ポイント、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思えますか」で18.7ポイント、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」で22.9ポイント、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」で17.5ポイント、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」で17.5ポイント、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」で11.6ポイント下回っていた。

国語、算数、英語に関する項目においては、「国語の授業の内容はよく分かりますか」で11.3ポイント、「国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか」で11.7ポイント、「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」で24.9ポイント、「国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか」で16ポイント、「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」で11.9ポイント、「算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」で14.6ポイント、「英語の勉強は好きですか」で22.6ポイント、「英語の勉強は大切だと思いますか」で12.1ポイント、「英語の授業の内容はよく分かりますか」で15ポイント下回っていた。

質問紙の結果を受け、課題を全体に関するものと国語・算数・外国語に関するものの2点に分ける。

1 全体に関する項目

教師が、児童の学習状況を十分に把握し、できたことを認めるだけではなく、取り組みの過程においても良いところを見つけて認めることで自己肯定感を高めていく必要がある。

授業においては、自ら考え、主体的に取り組む時間を確保するとともに、自分の考えをまとめる時間の確保も合わせて取り入れる必要がある。

児童の個別の学習状況の把握を十分に行い、それぞれに合った教え方を検討して実践を重ねることに加え、学習時間そのものの確保や実生活と関連付けて考える指導を行う必要がある。

また、時間ごとや単元ごとに内容を振り返る時間を充実させ、より確実な理解浸透や次の学習への円滑な接続を図るとともに、状況に応じた個別指導を行う必要がある。

道徳科や学級会においても、自分の意見や他者の意見を比較・検討することができるように話し合い活動を充実させる必要がある。

2 国語・算数・外国語に関する項目

国語

授業中に、目的に応じて簡潔な文章や詳細な文章を用途に応じて書き分ける際に、相手に自分の考えをより正確に伝える工夫を通して、自分の考えを整理するツールとしての重要性や必要な要素について指導する必要がある。また、登場人物の性格や特徴、物語全体のイメージや表現方法に着目させる等、文章読解のポイントを分かりやすく指導する必要がある。

算数

問題の解決だけではなく、解決に至る複数の思考の道筋を検討する時間を確保し、様々な考え方について個人内や学級内で比較検討する時間を確保する必要がある。

外国語

学ぶ意義や目的を明らかにさせ、意欲的に取り組ませるだけではなく、教材・教具の工夫により、楽しく分かりやすい授業を行う必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

学校生活において、教師による児童の実態把握や、良いところを積極的に称賛し認めていくことを継続して行う。2学期は、学校行事や朝の会・帰りの会等を活用し、児童が相互に認め合う時間を確保していく。また、主体的・協働的な学びの実現を目指し、自分の考えを明確にする時間や他者の様々な考えと比較・検討する時間を確保する。その際に、ICT機器の更なる効果的活用にも取り組む。

9月より、教員の授業力向上のためのOJT研修として、指導法に関する内容を取り入れる。また、教員相互に授業参観をこれまで以上に積極的に行い、授業力向上を継続して図っていく。